

平成18年度 第1回 ExTEND2005 作用・影響評価検討会 議事要旨

日時：平成18年6月22日(金) 17:00～19:00

場所：航空会館 703 会議室

出席者：

委員：遠山千春(座長)、斎藤昇二、白石寛明、菅谷芳雄、原 彰彦

欠席委員：藤井一則

オブザーバー：井口泰泉(魚類試験実務者会議座長)、青山博昭(哺乳類試験実務者会議)
(敬称略)

事務局：上家環境安全課長他

議題：

1. 平成14年度及び平成15年度選定物質を対象とした試験の結果について

2. 試験対象候補物質を対象とした試験の進捗状況について

報告事項：ExTEND2005における試験法開発について

議事要旨

- (1) 平成14年度選定物質である *p,p'*-DDE について、メダカを用いた試験(ピテロジェニンアッセイ、パーシャルライフサイクル試験及びフルライフサイクル試験)及び試験管内(in vitro)試験の結果、「魚類に対して致死毒性が認められなかった濃度範囲においては、内分泌かく乱作用を示す指標に有意な変化は認められなかった」という考察結果が示された。
- (2) 平成15年度選定物質であるケルセンについて、ラットを用いた追加検査(甲状腺の組織病理学的検査及び遺伝学的解析)の結果、Wistar Hannover 系ラットに甲状腺重量の高値が認められる突然変異ヘテロ個体が混在することが確認され、「文献情報等により得られたヒト推定ばく露量を考慮した用量での明らかな内分泌かく乱作用は認められなかった」という考察結果が示された。
- (3) 試験対象候補物質である 4-t-ブチルフェノール、ノニルフェノールモノエトキシレート、ノニルフェノールジエトキシレート、ノニルフェノキシ酢酸について、メダカエストロゲン受容体結合競合阻害試験、メダカエストロゲン受容体レポータージーン試験、メダカアンドロゲン受容体レポータージーン試験及びメダカ甲状腺ホルモン受容体結合試験の結果、いずれの物質もメダカエストロゲン受容体との結合強度はノニルフェノール及び 4-オクチルフェノールと比較して弱いことが報告された。4-t-ブチルフェノールについては影響に関する情報、ノニルフェノールモノエトキシレート、ノニルフェノールジエトキシレート、ノニルフェノキシ酢酸については一般環境中検出状況に関する情報収集に努めるものとする。また、魚類試験体系の合理化についての検討状況が示された。
- (4) 試験対象候補物質である 4-t-ブチルフェノールの哺乳類試験の実施状況が示された。

以上